

実証運行の評価にあたっての整理

1 西東京市地域公共交通計画における位置づけ

(1) 実証運行の役割について

公共交通の役割分担では、新たな移動手段は「その他」に分類されるものであり機能分類としては、「地域内補助交通」と、「ドアツードアの交通」となっている。

機能分類	公共交通機関	輸送規模
【広域幹線交通】 都心や周辺都市など比較的長距離の移動を、速達性をもって連絡する。	鉄道	大規模
【地域内幹線交通】 鉄道駅等の拠点を起点に、主要施設や人口集積地域を連絡する。	路線バス	中規模
【地域内補助交通】 広域幹線交通や地域内幹線交通を補完し、主に公共交通空白地域から鉄道駅や公共施設等への移動の利便性に資する。	はなバス等	小規模
	その他 ※	地域需要による
【ドアツードアの交通】 個別の移動ニーズに対応し、面的な交通サービスを供給する。	タクシー	特定少数

※今後必要に応じて導入を検討する移動手段

(2) 実証運行の目的について

令和6年度第4回地域公共交通会議において、以下のように整理した。

地域公共交通計画において、公共交通が実現する移動の理想の姿として示した「すべての人が安全で快適で便利に移動している」という基本方針を実現する上での課題を踏まえて設定した目標である、「公共交通等を利用し便利に移動する市民等の拡大」の達成を目指す。

【移動の理想の姿を実現する上での課題】

①拠点を中心とした市内外移動の利便性向上が必要

②移動に困難を感じている人の移動の円滑化や快適性向上が必要

⑥交通手段相互の連続性の向上が必要



基本方針1 すべての人が安全で快適で便利に移動している

目標1 公共交通等を利用し便利に移動する市民等の拡大

対応課題	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	○	○				○			

目 標	1 公共交通等を利用し便利に移動する市民等の拡大
施 策	3 公共交通空白地域における需要と状況に応じた移動手段導入の検討
内 容	これまで、タクシーを活用した実証実験など、市の南部地域における公共交通空白地域を中心とした取組を行ってきました。この取組の検証結果、地域の変化を踏まえ、他自治体の事例等を参考にしながら、新たな持続的な移動手段の検討、検証を進めます。 その結果として得られた知見を活かし、他の対応すべき地域における市民ニーズに応じた取組を検討していきます。検討にあたっては、バス停から300m圏外とはいえ大半がバス停から500m以内であり、狭幅員の道路に囲まれているという本市の公共交通空白地域の地理的な特性や都市基盤整備の進捗状況を踏まえながら、運行の持続性（採算性）を考慮して進めていきます。

2 西東京市 SDGs 未来都市計画における位置づけ

(1) 取組概要

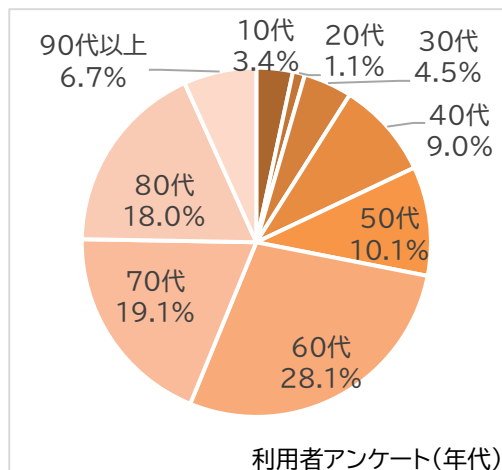
田無駅北口及び新たに整備する田無駅南口交通広場を起点に、市内において「健幸」の視点に基づいた「歩いてまちを楽しむ」空間を創出し、にぎわいを生み出す。

(2) 全体最適化の概要

- ・空間整備と公共交通ネットワーク整備の一体的な推進に取り組むことにより、全世代の外出を促進し、地域交流と健康づくりを日常化することが期待される。
- ・地域交流の仕掛けや移動手段の充実によって、個人の暮らしの質を高めるだけでなく、地域活動の活性化、地域経済の循環、健康寿命の延伸など、社会的コストの抑制にもつなげていくことが期待される。

3 利用実績、利用者アンケートにおける回答

利用実績では、車椅子の利用や未就学児の利用もみられるなど、様々な状況の方が利用している。利用者アンケートの回答では、10代から90代以上までの幅広い年代の方が利用しており、中でも60代、70代、80代と回答した方が多い。個別の意見では、「子ども連れでも天候に関係なく買い物に行ける」「高齢者施設の往復に助かる」「病院受診が多いので是非継続してほしい」といった声があった。



利用者アンケート(年代)

4 地域住民アンケートにおける自由意見記述

(1) 利用したことがある方（生成 AI ツールによる要約）

多くの利用者が「便利」「助かる」と評価し、運行の継続を強く希望している。特に高齢者や歩行が困難な方からの感謝の声が多く、「通院や買い物に欠かせない」との意見が目立つ。

(2) 利用したことがないが、今後利用したい方（生成 AI ツールによる要約）

現段階で利用していない理由として「歩ける」「自転車に乗れる」「車が利用可能」などが挙げられているが、老後や足腰が弱った場合の利用を前向きに考える意見が多数。「将来的に便利そう」「自分が高齢者になった時に助かる」など、存続や継続への期待が強い。

5 実証運行の性質について

1～4までの内容を鑑み、実証運行の性質は以下のとおり整理する。

実証運行は、公共交通空白地域における移動手段であり、誰でも利用することができる公共交通であることに加え、身体的な理由等の様々な状況によって、移動が困難な方の移動利便性に寄与する福祉的な側面や、将来的に社会的コストの抑制につながることを期待する側面もある、多面的な公共交通である。